

研究主題

「自分の思いをもって、粘り強くみんなと共に学ぶ児童の育成」

～ICTを利活した個別最適な学び，協働的な学びを通して～

学校教育目標

「夢をもち，みんなと共に生きる子どもの育成」

～中里仲良しニ（共に学び，共に育つ）～



◆ かしい子
◆ やさしい子
◆ たくましい子

自分の思いや考えを表現する。
喜びをもって関わる。
粘り強く努力する。

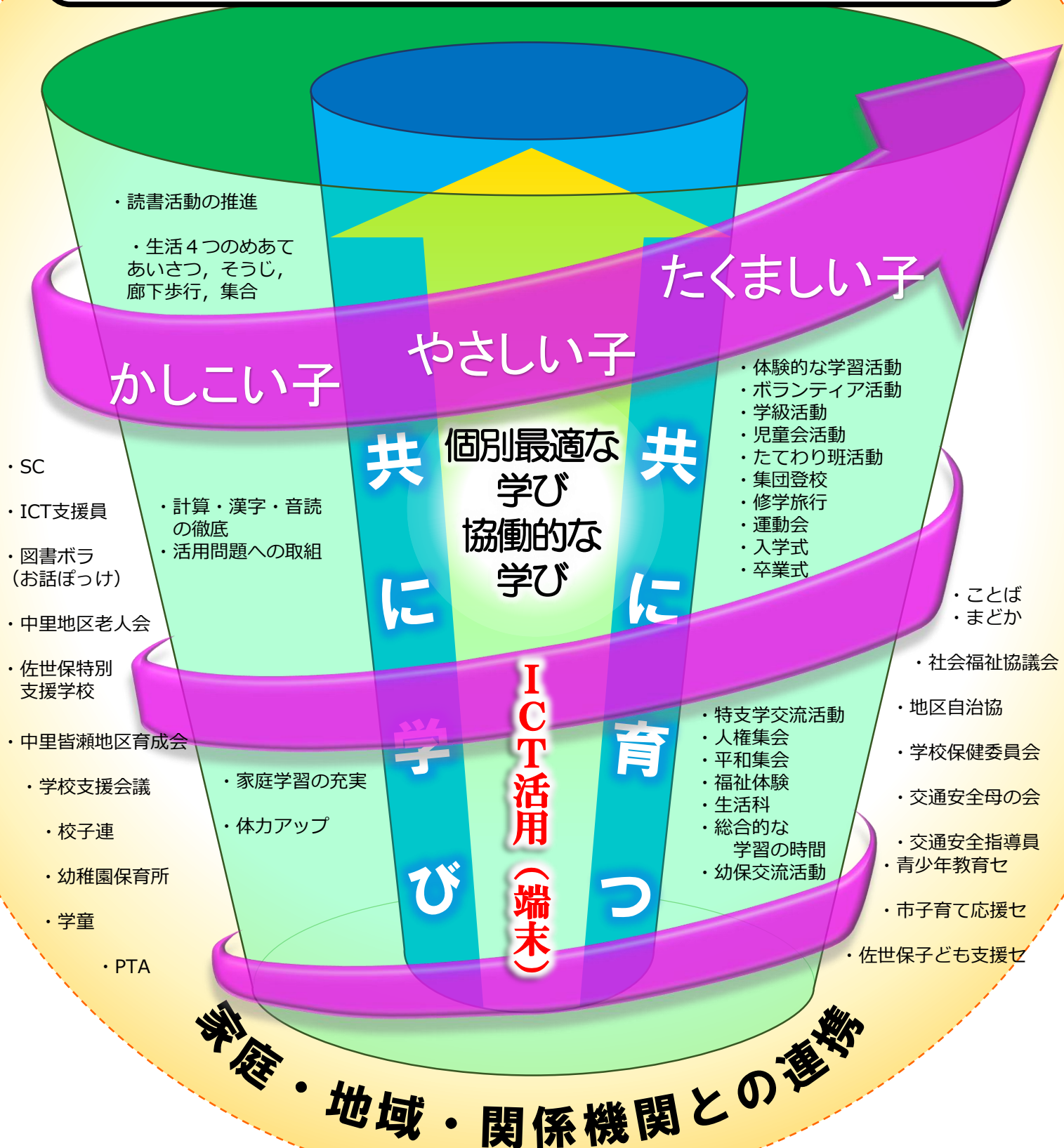
佐世保市立中里小学校

学校教育目標

夢をもち、共に生きる子どもの育成
～ 中里仲良しニ(共に学び、共に育つ)～

研究主題

自分の思いをもって、粘り強くみんなと共に学ぶ児童の育成



研究の概要

1 研究主題

「自分の思いをもって、粘り強くみんなと共に学ぶ児童の育成」

～ICT を利活用した個別最適な学び、協働的な学びを通して～

2 研究仮説

以下の点における研究・実践により、自分の思いをもって、粘り強く考え、みんなと共に学ぶ児童が育つであろう。

- 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現の視点に立った ICT を利活用した、国語科「読むこと」の領域における授業展開の工夫

①個別最適な学びにおける効果的な ICT の利活用

②協働的な学びにおける効果的な ICT の利活用

- 2 基礎学力向上のための ICT の利活用

①スキルタイムにおける ICT の利活用

②情報モラル教育について

③一人一人の学習状況に応じた個別学習

- 3 家庭学習における ICT の利活用

①ICT 持ち帰りによる家庭学習

②デジタル教材等を用いた家庭学習

③一人一人の学習状況に応じた個別学習

3 学習過程

過 程	学 習 活 動	学 習 形 態
つかむ・見通す	・ 本時の課題を知る。	
考える	・ 文章の内容や形式に着目して読み、目的に応じて必要な情報を見付けたり、書かれていることや書かれていないことについて具体的に想像したりする。	個別学習
深める 分かる 考える	話題の中心：協働学習において、本時のねらいへとせまるための発問。 ・ 文章を読んで、自分の考えを形成する。 ・ 自分の考えを表現し、互いの考えを認め合ったり、比較して違いに気付いたり、検討したりすることを通して、自分の考えを深める。	個別学習 協働学習
まとめる 学ぶ	・ 本時のまとめ、振り返りをする。	

実践報告

(1) 授業研究部

分かる（理解）

◆デジタル教科書 第2学年 説明文「馬のおもちゃの作り方」



◆デジタル教科書の教材文に、ラインを引きながら読み取りを進めた。色の異なるラインを引くことができ、更に、ラインを引いたり消したりも容易にできる。

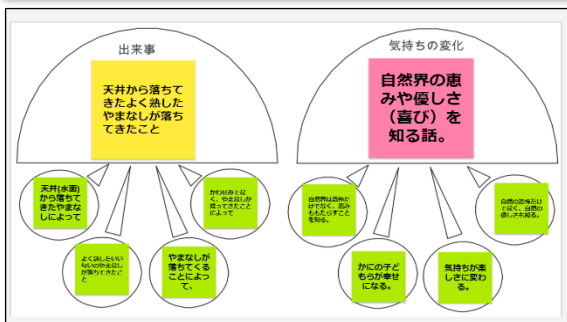
◆e ライブラリ



◆本時の確かめや単元の習熟、家庭学習等、活用法は多様である。児童自身が目的に応じて主体的に課題を選択できる点が大きな魅力である。

考える（思考）

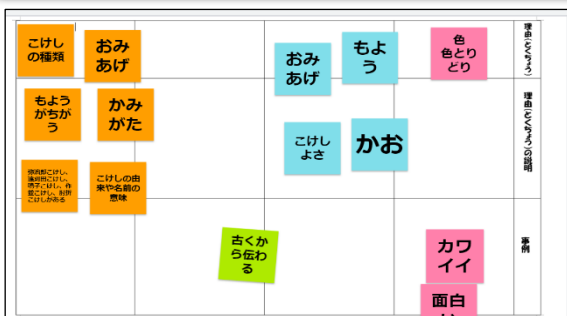
◆思考ツール 第6学年 物語文「やまなし」



◆作品の主題を考えるにあたって、根拠を明確にしたグループ対話をねらい、クラゲチャートを活用した。意見の共有・整理が容易で、対話の活性化につながった。



◆組み立てメモ 第4学年 説明文「世界にほこる和紙」



◆伝えたいことが伝わる本論の組み立てや言葉を考えさせるにあたって、グループ対話による意見の共有、整理、検討をねらい、組み立てメモを活用した。



◆並び替え 第3学年 説明文「すがたを変える大豆」

5	4	3	2	1
				
（これらの他に） とり入れ時や育て方をかえ てたべくふう	（また） えいようをとり出して ちがう食品にするくふう	（さらに） 小さな生物の力でちがう食品 にするくふう	（次に） こなしてたべくふう	（いちばんわかりやすいのは） いったりたりするくふう

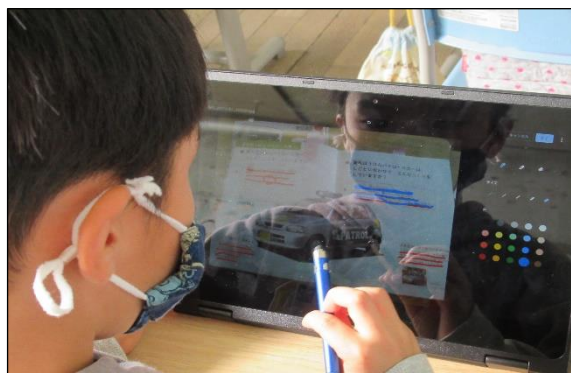
りゅう

つなぎ言葉の順番



◆ランダムな文を並び替えることで、児童は、文章や内容、つなぎ言葉を手掛かりに、筆者の説明の工夫（事例の順序）について主体的に思考した。

◆写真への書き込み 第1学年 説明文「じどう車くらべ」



◆カメラ機能で撮影した自動車図鑑の写真。「しごと」や「つくり」の部分に線を引き、ペア学習で「しごと」に合った「つくり」かどうか検討した。書き込みが容易で、活動が活性化した。

学ぶ（主体）

◆振り返り

無題のフォーム

 nakazatoes@g.city.sasebo.ed.jp （共有なし）
[アカウントを切り替える](#)


班の人とはしっかりと話し合えましたか？

☐ 話し合えた。
☐ だいたい話し合えた。
☐ 少し話し合えなかった。
☐ 話し合えなかった。

筆者のせつめいのじゅんじょのくふうが分かりましたか？

☐ よくわかった
☐ だいたいわかった



◆学習の振り返りを瞬時にやり、また、共有も容易にできる。分かったことやできるようになったことを明確にすることで、確かな習得につながり、次に生かす力となる。

(2) 基礎学力向上部

①スキルタイムにおける ICT の利活用

◆児童の基本的な ICT スキルを育成するため、朝のスキルタイムの時間に週1回タブレットタイムを設定した。

月	火		水	木	金
読書タイム	仲良しタイム		スキルアップタイム		
	①全校集会	1・6年	タブレット	漢字	計算
	②③学年学級	2・5年	計算	タブレット	漢字
	④全校朝会	3・4年	漢字	計算	タブレット

◆アクセスの集中などによる通信トラブルを避けるため、2学年ごとに曜日を設定した。

②情報モラル教育

◆児童の情報モラルを育成するために、毎月第2週のタブレットスキルタイムを情報モラル教育の実施日(年間11回)に設定した。初年度は、文部科学省の「情報モラルモデルカリキュラム表」をもとに、学年に応じた内容を指導し、今後、使用状況や学年の実態に応じて本校のカリキュラムを作成していく。さらに、高学年は長崎県独自の情報モラル指導の「SNS ノートながさき」を活用し、SNS を使用する際の注意点等を学習する。

情報モラル指導モデルカリキュラム表			
<大目標・中目標レベル>			
分類	L1: 小学校1～2年	L2: 小学校3～4年	L3: 小学校5～6年
1. 情報社会の倫理	a1～3: 発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ a1-1: 約束や決まりを守る b1～3: 情報に関する自分や他者の権利を尊重する b1-1: 人の作ったものを大切に する心をもつ	a2-1: 相手への影響を考えて行動する b2-1: 自分の情報や他人の情報を大切に する	a3-1: 他人や社会への影響を考 えて行動する b3-1: 情報にも、自他の権利がある ことを知り、尊重する
2. 法の権威と遵守		c2～3: 情報社会でのルール・マナーを遵守できる c2-1: 情報の発信や情報やりとりする 場合のルール・マナーを知り、守る	c3-1: 何がルール・マナーに反する行 為かを知り、絶対に行わない c3-2: 「ルールや決まりを守る」というこ とが社会的意味を知り、自覚する c3-3: 契約行為の意味を知り、勝 手な判断を行わない
3. 安全への知恵	d1～3: 情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる d1-1: 大人と一緒に使い、危険 に近づかない d1-2: 不適切な情報に出会わ ない環境で利用する	d2-1: 危険に出会ったときは、大人に 意見を求め、適切に対応する d2-2: 不適切な情報に出会った ときは、大人に意見を求 め、適切に対応する	d3-1: 予測される危険の内容が わかり、避ける d3-2: 不適切な情報であるもの を認識し、対応できる
	e1～3: 情報を正しく安全に利用することに努める e1-2: 知らない人に、連絡先を 教えない f1～3: 安全や健康を害するような行動を抑制できる f1-1: 決められた利用の時間や 約束を守る	e2-1: 情報には誤ったものもある ことに気づく e2-2: 個人の情報は、他人にも もらさない f2-1: 健康のために利用時間を 決める	e3-1: 情報の正確さを判断する 方法を知る e3-2: 自他の個人情報や、第三 者にもらさない f3-1: 健康を害するような行動 を自制する f3-2: 人の安全を脅かす行為を 行わない
4. 情報セキュリティ		g2～3: 生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る g2-1: 認証の重要性を理解し、 正しく利用できる h3: 情報セキュリティの確保の ために、対策・対応がとれる 方法を知る	g3-1: 不正使用や不正アクセス されないように利用できる h3-1: 情報の破壊や流出を守る 方法を知る
5. 公共的なネットワーク社会の構築		i2～3: 情報社会の一員として、公共的な態度を持つ i2-1: 協力し合ってネットワー クを使う	i3-1: ネットワークは共有のも のであるという意識を持って使 う

「情報モラルモデルカリキュラム表」文部科学省



「SNS ノートながさき」

① この絵の中で、気になるところに○をつけましょう。



② ○をつけたりゆうをせつめいしましょう。

(3) 家庭連携部

①「学習の手引き」「家庭学習頑張りカード」の配布

- ◆家庭学習の充実と習慣化を図るため、全家庭に配付し、自宅の目に付くところに掲示しておくよう指導した。「学習の手引き」の学習メニューに、e ライブラリやデジタル教科書などを加え、自主学習においてタブレット端末を利活用できるようにした。



- ◆家庭学習強調週間を設定し、学習内容やタブレット端末利活用の時間を記録させた。本人の振り返りと保護者から家庭学習の様子についてコメントをもらい、その後の家庭学習の励みになるようにしている。

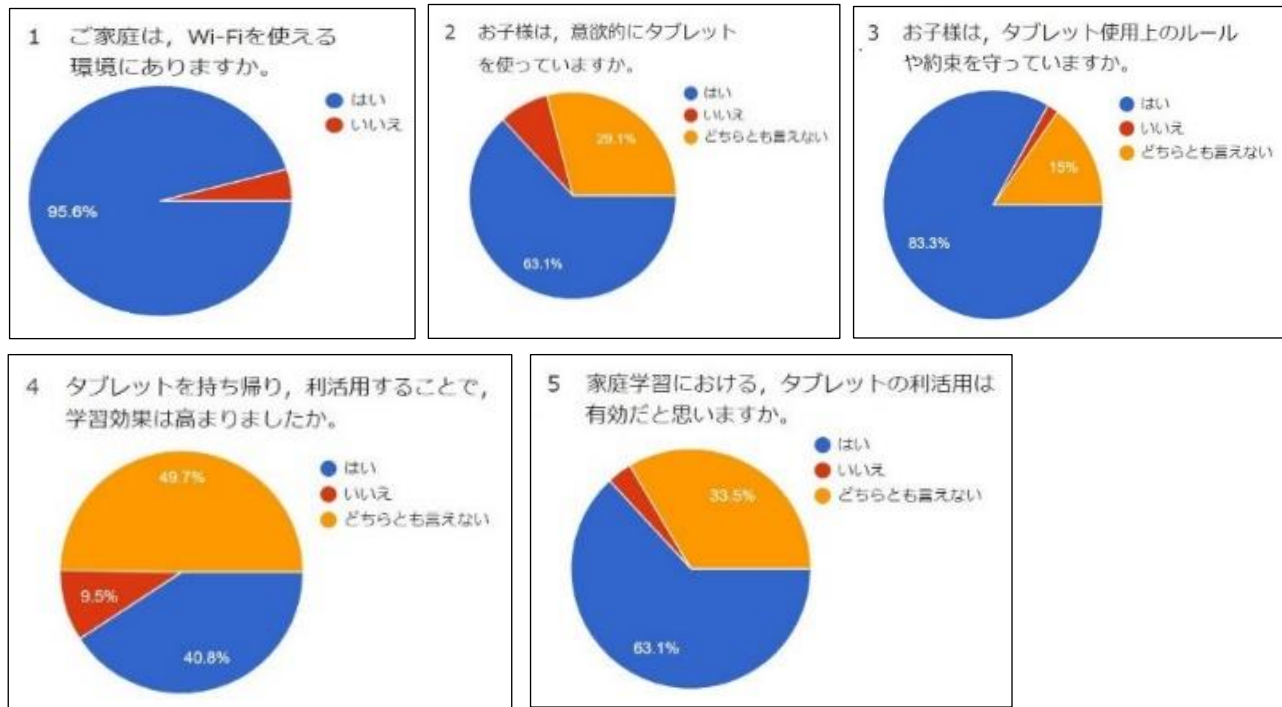
②「タブレット端末持ち帰りのてびき」の作成

- ◆家庭での望ましいタブレット端末の利活用と実践を促すためのてびき(全 13 ページ)を作成して配付した。



③保護者へのアンケートの実施

◆児童の家庭でのタブレット利活用状況の実態や保護者の意識を把握し、今後の研究に生かすために、保護者へのアンケートを実施した。



《記述回答》

- ・タブレットを使った学習に興味を持っている。
- ・タブレットが無かったときと比べて自らタブレットを使用して勉強するようになった。
- ・ローマ字入力がスムーズにできるようになってきている。
- ・時代の流れに沿った学習方法だと思う。将来に向けてIT活用によって視野が広がったり、得意分野を伸ばせたり苦手分野を克服したり色々な可能性があると思う。
- ・興味を持ったことをすぐ調べる癖がついた。
- ・間違いがすぐにわかり訂正できる点が良い。
- ・eライブラリの問題集が特に助かる。問題集を買わなくてよかった。
- ・タイピング練習が遊びになっている。
- ・タイピングの練習ソフトがゲームの延長のような感じ。

アンケートの考察

- どの項目においても前向きな回答が多かったが、④の学習効果については、「はい」と「どちらとも言えない」がほぼ半数の回答であった。
- 家庭学習におけるタブレット利活用においては、期待する意見や前向きに捉えている意見がある反面、保管や持ち帰りの際の破損、友達間のトラブル、視力の低下など心配や不安な声も上がっている。
- タブレットの使い方やルール、マナーなど、今後も保護者への情報提供に努めていきたい。

(4) ICT 活用部

①「中里小タブレット 50の技 段階表」作成

◆各学年の重点指導事項を明確にし、系統的に指導するため「段階表」を作成した。

中里小タブレット 50の技 段階表									
◎重点指導 ・活用									
ソフト	No	操作	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
1 基本操作	1-1	電源の投入終了	◎	・	・	・	・	・	
	1-2	クリック	◎	・	・	・	・	・	
	1-3	ダブルクリック	◎	・	・	・	・	・	
	1-4	ドラッグ&ドロップ	◎	・	・	・	・	・	
	1-5	コピー&ペースト		◎	・	・	・	・	
	1-6	名前を付けて保存(出席番号等)			◎	・	・	・	
	1-7	名前をつけて保存(検索しやすい名前の付け方)					◎	・	
	2-1	クラスルームに参加する	◎	・	・	・	・	・	

②「中里小学校 タブレットタイム指導計画表」作成

◆学年、時期、内容を明確にするため、「指導計画表」を作成した。

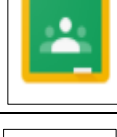
中里小学校 タブレットタイム 指導計画表 (※番号は、「中里小学校 タブレット 50 の技 段階表」)									
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月
1年			基本操作 1-1 電源の投入 1-2 クリック 1-3 ダブルクリック 1-4 ドラッグ&ドロップ	写真 3-1 写真撮影 3-2 写真閲覧 3-3 拡大閲覧	クラスルーム 2-1 クラスルームに参加する		動画 4-1 動画撮影 4-2 撮影した動画の視聴		お絵かき 10-1 自由なお絵かき ジャムボード体験 文字入力 手書き入力
2年	クラスルーム 2-2 クラスルームを見て、課題を確認する	基本操作 1-5 コピー&ペースト	インターネット 5-1 Web ページの閲覧 5-2 見たい内容をクリック 5-3 「戻る」「進む」	写真 3-4 写真撮影(アップロード)	お絵かき 12-1 自由なお絵かき ジャムボード体験 文字入力 音声入力	プログラミング 11-1 基本的な操作(パズル等)			補充や先行学習
3年	クラスルーム 2-3 課題を提出する	基本操作 1-6 名前を付けて保存(出席番号等) ファイル名変更	ドキュメント 7-1 入力された文章に改行を挿入	写真 7-2 入力された文字のフォント変更	インターネット 5-4 「お気に入り」に登録 5-5 「お気に入り」を削除	プログラミング 11-2 基本的な命令(繰り返しや条件等)			補充や先行学習
4年	文字入力 6-2 ローマ字入力(入門) ※キーボードアドベンチャー	ドキュメント 7-3 簡単な文書やアンケート等の作成	スライド 8-1 雛型等を利用して3枚程度のプレゼン作成	スライド 8-2 新規作成で3枚程度のプレゼン作成	インターネット 5-6 キーワード検索(指定された単語)	文字入力 6-2 ローマ字入力(入門) ※キーボードアドベンチャー	ドキュメント 7-4 「新聞」作成	プログラミング 11-3 簡単なプログラム作成	補充や先行学習
5年	フォルダ管理 2-4 フォルダ作成(階層を意図)	文字入力 6-3 ローマ字入力(慣れる)※キーボードアドベンチャー	スプレッドシート 9-1 与えられた表から基本的なグラフ作成	スライド 9-2 データの並び替え	インターネット 8-3 アニメーション追加 8-4 新規作成で5枚のプレゼン作成	スプレッドシート 9-3 基本的な関数(合計・平均・個数等)	スライド 9-4 表を作成してグラフ化	プログラミング 11-3 簡単なプログラム作成	補充や先行学習
6年	ジャムボード 10-3 「ふせん」学習で意見交換	写真 3-5 写真のトリミング インターネット 5-6 キーワード検索(効果的な単語)	ドキュメント 7-5 ファイルのレイアウト設定	スプレッドシート 9-3 基本的な関数(合計・平均・個数等)	スライド 9-4 表を作成してグラフ化	スプレッドシート 9-3 基本的な関数(合計・平均・個数等)	スライド 9-4 表を作成してグラフ化	プログラミング 11-3 簡単なプログラム作成	補充や先行学習

③ 教職員 ICT スキルアップ研修

研修（中里小）R3



◆教職員の ICT 活用力の向上を図るため，短時間で様々なツールの活用について，実践的に研修を行っている。以下，研修の記録を紹介する。

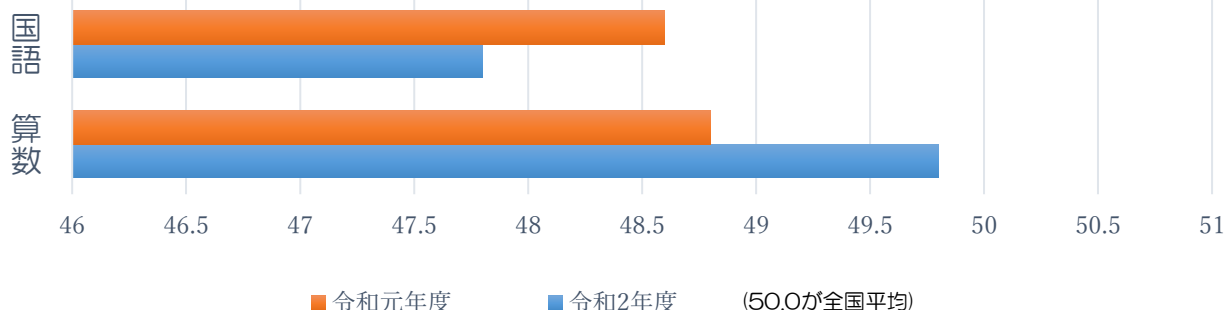
	時 期	形態	内 容	機 能
①	4/22 (木)	全体	■ ICT スキルアップ研修① ・e ライブラリの活用の仕方	
②	5/11 (火)	全体	■ ICT スキルアップ研修② ・Google ドキュメント 共同編集を体験しましょう	
③	5/26 (水)	全体	■ ICT スキルアップ研修③ ・Google Forms アンケート機能を試してみよう ・おすすめの書籍は？ ・どんなことができるの？	
④	6/10 (木)	全体	■ ICT スキルアップ研修④ ・Google for Classroom でクラスを作成してみよう ・Google for Education 使い始め利活用ヒント集	
⑤	7/1 (木)	全体	■ ICT スキルアップ研修⑤ ・Google meet ライブ配信	
⑥	8/31 (火)	部会	■ ICT スキルアップ研修⑥ ・Google meet によるテレビ会議について	
⑦	9/2 (木)	全体	■ ICT スキルアップ研修⑦ ・GIGA スクール構想の研修の伝達研修	
⑧	10/12 (火)	全体	■ ICT スキルアップ研修⑧ ・ICT の日常活用：健康観察，そうじ振り返り，一言日記 ■ ICT スキルアップ研修アンケート実施	



児童実態調査

(1) 学力調査

標準学力調査結果



標準学力調査の考察

○全校的な傾向を見るため、全学年の結果を平均化して表している。

【国語】

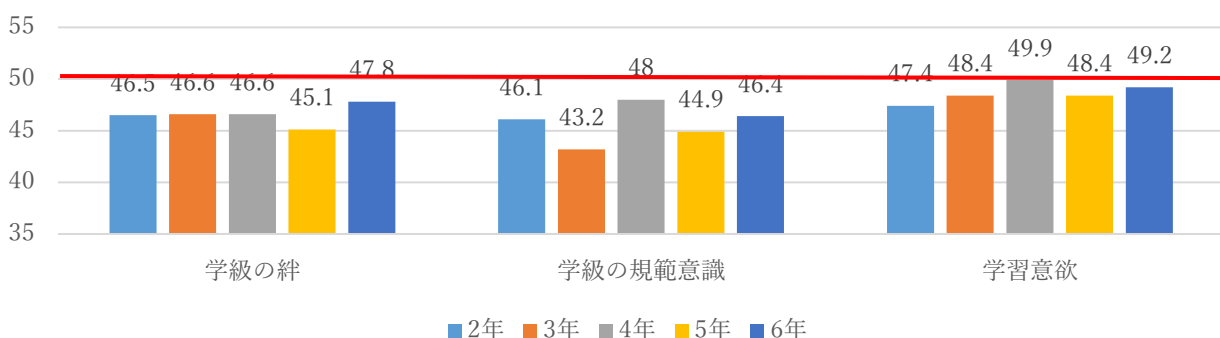
○2学年が前年度を上回り、1学年が全国平均を上回った。学年が上がるにつれ、下降傾向であり、下学年からの指導の充実と継続的な指導強化が望まれる。

【算数】

○3学年が前年度を上回り、3学年が全国平均を上回った。おおむね上昇傾向にある。国語と同様に下学年からの継続的な指導強化が必要である。

(2) 心の状況調査

心の状況調査に見る学年別の実態 (R3年6月実施)



心の状況調査の考察

○6月の段階では、標準スコア(全国平均を50とする偏差値として算出したもの)を上回る項目、上回る学年がひとつもないことが分かる。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校生活の中では様々な対策が講じられた。学習活動においては、友達と十分な話し合いや学び合いができず、活動が制限されることも少なからずあった。子どもたちの不安定な心の様子がどの学年の調査結果にも表れている。

○個別最適な学びだけではなく、協働的な学びによって、さらに学習内容が深まる。そのためにタブレット端末を授業の中でどのように取り入れるか、模索を始めた時期の調査結果である。

○学力調査と心の状況調査との相関関係やタブレット端末を活用した結果どのような変容が見られるか、年度末(1～2月の予定)に2回目の調査を実施して今後の研究に活用していきたい。

(3) タブレット端末意識調査

(R3年6月実施)

○1～2年生 児童の意識調査(「はい」と答えた児童の割合)

① タブレットをつかったぺんきょうは たのしいですか。	95.1
② タブレットをつかったぺんきょうは わかりやすいですか。	75.6
③ タブレットをつかったぺんきょうを もっとしたいですか。	91.5
④ タブレットで みんなの思いや かんがえを しりたいですか。	72.0
⑤ タブレットを かていがくしゅうで つかっていますか。	72.6

○3～6年生 児童の意識調査(「思う」「どちらかといえば思う」と答えた児童の割合)

① タブレットを使った勉強は、楽しいと思いますか。	96.8
② タブレットを使った勉強は、分かりやすいと思いますか。	95.5
③ タブレットを使った授業をもっと受けてみたいと思いますか。	95.8
④ タブレットを使って、みんなの思いや考えを知りたいと思いますか。	90.1
⑤ タブレットを使って、みんなに自分の思いや考えを知らせたいと思いますか。	79.9
⑥ タブレットを使って、みんなと話し合いたいと思いますか。	90.8
⑦ タブレットに自分の考えを書くのは、書きやすいと思いますか。	89.5
⑧ タブレットを家庭での学習に活用していますか。	89.8

○教職員の意識調査(「思う」「どちらかといえば思う」と答えた教職員の割合)

① タブレットは、児童の意欲を高めることに効果的だと思いますか。	100
② タブレットは、児童の理解を高めることに効果的だと思いますか。	93.8
③ タブレットは、児童の表現や技能を高めることに効果的だと思いますか。	93.8
④ タブレットは、児童の思考を深めたり広げたりすることに効果的だと思いますか。	93.8
⑤ タブレットは、児童のコミュニケーション能力を高めることに効果的だと思いますか。	43.8
⑥ タブレットは、個別最適な学びを進めるために効果的だと思いますか。	93.8
⑦ タブレットは、協働的な学びを進めるために効果的だと思いますか。	81.3

タブレット端末意識調査の考察

○タブレット端末を活用した学習について、「楽しい」「もっと使ってみたい」と9割以上の児童が考え、全教職員が意欲を高めることに効果的であると考えている。

○タブレット端末を活用した学習は、理解を高める手段として、3年生以上の児童と教職員の9割以上が効果的と考えている。ただ低学年は端末の使い方がまだ十分に分かっていない時期の調査であり、「タブレットを使った勉強はわかりやすい」と回答した児童の割合が少し低い。

○1～2年生「④ タブレットで みんなの思いや かんがえを しりたいですか。」(72%) 3～6年生「⑤ タブレットを使って、みんなに自分の思いや考えを知らせたいと思いますか。」(79.9%) 教職員「タブレットは、児童のコミュニケーション能力を高めることに効果的だと思いますか。」(43.8%)の回答結果から、タブレット端末のコミュニケーションツールとしての評価は、他の割合と比較すると低いことが分かる。

○教職員は協働的な学びよりも個別最適な学びを進めるために効果的と考える割合の方が高く、研究がスタートする段階の意識を示すものとして、今後どのように変容していくのか興味深い。

成果と課題

本年度、研究の途に就いたばかりで、まだまだ研究半ばではあるが、これまでの研究の成果と課題を以下に述べる。

【仮説１】

「主体的・対話的で深い学び」の実現の視点に立った ICT を利活用した、国語科「読むこと」の領域における授業展開の工夫

○これまでの実践から、個別学習及び協働学習における次のような ICT の特性、強みが明確になってきた。

- ・相互且つ瞬時の情報の共有（双方向性）ができる。
- ・多量で大量の情報の取り扱いができ、容易な試行錯誤ができる。
- ・学習の過程が可視化できる。
- ・学習の振り返りが容易にできる。
- ・児童の学習意欲を喚起する。

○協働的な学びにおいて、ICT を利活用したことで、情報の共有・整理・比較が容易になり、対話的な学びが活性化した。

○ICT を利活用して授業で学習したことを、家庭でも活用する児童の姿が見られるようになった。

※ICT を利活用した協働的な学びをより深い学びにしていくために、対話の目的やねらいを明確にし、それを支える約束事も整理していく必要がある。

※個別最適な学びについては、まだ十分に検証が進んでいない。児童一人一人にとっての個別最適な学びとは何か、模索していく必要がある。

※タブレットの利活用を先行しているため、その児童にとってデジタルは有効なのか、また、児童自身によるデジタルとアナログの選択が可能なのかなど、個別最適な学びの検証を今後、進めていく必要がある。

【仮説２】

基礎学力向上のための ICT の利活用

○タブレットタイムによって、児童がタブレットの操作に慣れたり機能を覚えたりする機会が確保され、児童の ICT スキルの向上が確実に進んでいる。

○佐世保市の環境にあった ICT スキル段階表や年間指導計画を作成し、計画的に指導することができた。

※情報モラル教育を進めるにあたり、児童の ICT の利活用の実態に応じて、指導学年・内容を検討することが必要である。今後、慎重に吟味しながら、本校独自のカリキュラム作成を進めていく。

※段階表や年間計画については、実施しながら、次年度に向けてよりよい内容に改善していく。

【仮説３】

家庭学習における ICT の利活用

○タブレット利活用の時間を書き込むようにしたことで、家庭学習におけるタブレット利活用の様子が把握することができた。また、保護者からのコメントも家庭学習の様子やタブレット利活用の様子を把握する上で参考になった。

○タブレット利活用については、２回目の家庭学習でタブレットを活用した児童は１回目よりも減少した。しかし、自ら進んでタブレットを持ち帰り、自主学習や授業でできなかった問題に取り組んだり、授業のまとめや振り返りを自主的にしたりする児童の姿が見られるようになっている。

※「タブレット端末持ち帰りのてびき」については、今後も見直しをしながら、家庭でより効果的に安心してタブレットを利活用できるようにしていく。

※タブレットの使い方やルール、マナーなど、今後も家庭への情報提供に努め家庭との連携を深めていく。

研究同人

校 長	兼 正晴	4年2組	武富 健次	少人数指導	枳本佳奈子
教 頭	大石 泰文	5年1組	竹村志穂子	養護教諭	松永香菜子
教務主任	川崎正一郎	5年2組	岡村 康典	事務主査	吉富 郁加
1年1組	山下 美保	5年3組	田崎 公康	少人数指導	吉田 史子
1年2組	鯉田あゆみ	6年1組	太田 真二	教育支援員	大石 陽子
1年3組	金丸満智子	6年2組	志田笑美子	管理員	森 弘志
2年1組	永田 優太	6年3組	福田 真広	調理士	鴨川みどり
2年2組	野田 若菜	ひまわり	野間百合子	調理士	横田美代子
2年3組	濱崎 香	たんぼぼ	中川内 充	I C T支援員	村岡加代子
3年1組	田坂 秀太	さくら	三木 弥生	事務補助	松永 文子
3年2組	川口 莉奈	専 科	國重 亜矢	学校司書	山口美恵子
3年3組	田中 啓介	専 科	後藤 千里	スクールカウンセラー	石川 史子
4年1組	富永 千鶴	専 科	竹内 満美		

佐世保市立中里小学校

〒858-0904

長崎県佐世保市中里町356番地

Tel 0956-47-2204 (職員室)

Fax 0956-47-7383

中里小学校 HP アドレス

<http://www.city.sasebo.ed.jp/es-nakazato/asp/default.asp>

QRコードはこちら→

